



整形外科教授
播広谷勝三

座骨神経に沿って出る痛み

原因の疾患 正確に診断を

座骨神経痛！。多くの人が一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。

座骨神経は臀部から太ももの後ろ側を通って膝の裏に達し、ふくらはぎや足先につながっています。人間にとって最も太くて長い末梢神経です。座骨神経に沿って臀部や脚に生じた痛みを、特定の病名ではなく症状を示す言葉です。

座骨神経痛が生じる疾患はさまざまです。代表的なのは腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症です。この他、脊髄腫瘍や転移性脊椎腫瘍、卵巣嚢腫によるものもあります。さらに、脚の血行障害をきたす閉塞性動脈硬化症、ストレスなどによる心因性の疾患でも同様の痛みが生じることがあります。

腰椎椎間板ヘルニアは骨と骨をつなぐクッションの役割をしている椎間板が後

方に飛び出した状態で、神経を圧迫する原因となります。典型的な脚の痛みやしびれは、前かがみや椅子に座ったときに強くなることがあります。

一方、腰部脊柱管狭窄症は主に加齢や体質に伴って神経の通り道である脊柱管が狭くなり、神経が圧迫されます。長く立ったり歩いたりすると脚の痛みやしびれを感じます。腰掛けたり前かがみの姿勢で休憩したりすると症状は軽くなりますが、歩行を再開すると再び脚の症状が出る「間欠跛行」という状態になります。さらに進行すると脚の筋力低下、排尿障害になることもあります。

前述したように座骨神経痛は症状を示します。した

がって、その原因をきちんと診断することが重要です。外来では問診し、脚の知覚や筋力に異常がないか神経の診察をします。また、膝やアキレス腱をたたいて反応を調べることもします。

腰椎由来の症状の可能性がある場合は腰椎のエックス線写真撮影し、異常がないかチェックします。場合によってはMRI検査で神経組織や椎間板などエックス線写真で見ることができない組織を診療します。

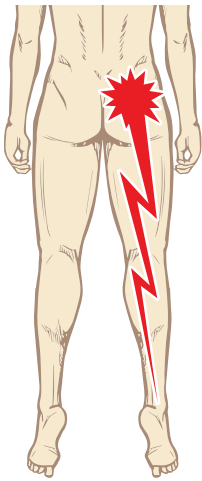
座骨神経痛を生じる疾患にはさまざまなものがあります。正確な診断に基づいて治療されなければ症状が長引きます。脚の痛みやしびれでお困りの方は整形外科専門医の受診をお勧めします。

腰部脊柱管狭窄症の痛みやしびれの特徴

■ 立っているだけでも脚が痛んだり、しびれたりする

■ ショッピングカートやシルバーカーを押すなど腰を曲げて歩くと症状が出にくい

■ 自転車に乗っているときには症状が出にくい



間欠跛行…歩くと脚の痛みやしびれが起き、腰かけたり前かがみの姿勢で休憩したりすると症状は軽くなる。また歩くと再び脚に痛みなどが出るといった症状を繰り返す。

腰椎、心因性…